

学長の業績評価の結果について

公立大学法人名桜大学学長選考会議規程第6条第1項第4号の規定に基づき、学長の業績評価を行いましたので、その結果を公表します。

記

1. 評価の経緯

(1) 令和4年度第1回学長選考会議（令和4年6月27日開催）

令和2年度及び令和3年度の学長の業績評価の実施方法について、公立大学法人名桜大学学長業績評価実施要項第2条及び第3条の規定に基づき、総合的に評価を行うことを決定した。

(2) 令和4年度第2回学長選考会議（令和4年8月24日開催）

令和2年度及び令和3年度の学長の業績について、上記（1）の学長の業績評価の実施方法に基づき、総合的に評価を行った。

2. 評価結果

別紙の通り

【大学運営に関する評価】

- ・第2期中期目標・中期計画を着実に（評価68項目中、S及びA評価は合計64項目の94%である）に推進し、安定的に大学運営が行われたものとして評価できる。
- ・第3期中期目標に基づき、持続可能な開発目標の推進、Society5.0及びデジタルフォーメーション、高等教育のグランドデザインに基づく教育改革、建学の精神に基づく教育プログラムの推進、北部地域の課題解決の視点を踏まえ、第3期中期計画を鋭意策定したことが評価できる。
- ・高度化する業務内容に適切、迅速に対応するために副学長2名体制（研究担当・教育入試担当）の導入、さらに学長補佐として大学質保証・評価担当、COI担当及び地域文化継承担当を加え、北部地域教育担当及び法人企画戦略担当も含めた5名体制とし、大学運営の強化を図ったことが評価できる。
- ・ハラスメント防止対策を強化するとともに、学外有識者（弁護士）を倫理委員会に迎え、迅速かつ適切な対応に取り組み、安全安心な教育研究環境の保持に努めていることが評価できる。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底を図り、円滑な大学運営に資するため、感染防止活動指針・ガイドラインの策定など迅速な対応を行ったことが評価できる。

【教育に関する評価】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として遠隔システムの整備を図り、早期よりハイブリッド型授業を導入したことが評価できる。
- ・IR室の活用により、学生の履修・取得単位、授業評価アンケート、学力テストなどを分析することで教育効果を可視化し、内部質保証の基盤づくりを進めたことが評価できる。
- ・「国際社会で活躍できる人材の育成」を推進すべく、各学習支援センターの整備、強化により学生のコミュニケーション力、数理分析力、ICT活用力の養成に取り組んだことが評価できる。

【研究に関する評価】

- ・科学研究費獲得状況分析に基づき、申請件数の増加及び採択率の向上に向けた、アドバイザー制度の導入、学長裁量経費の充実、サバティカル制度の導入、研究費配分の規程改正など、研究活動促進への取り組みが評価できる。
- ・研究活動等の不正防止と公的研究費の適切な使用に関し、規程の整備、内部監査やモニタリング実施など管理・監査体制を強化したことが評価できる。

【地域貢献に関する評価】

- ・北部教育研修センター実証事業の終了後も教員養成講座事業等を継続し、教員採用候補者選考試験合格者では前年を上回る結果を出したことなど、北部地域の教育文化向上に貢献したことが評価できる。
- ・学長個人の専門分野と地域と技能を生かした「やんばる版プロジェクト検診」事業は、地域課題を解決するだけでなく将来、企業誘致、北部地域での新たな健康産業の創出に繋がる取り組みである。この事業を更に継続、発展させようとしていることが評価できる。
- ・学長としての知見を活かし、地域振興、文化、経済、教育関連、県内の医療・科学技術分野、その他大学評価関係など、さまざまな委員として社会貢献に精励したことが評価できる。

**【特記すべき事項】**

- ・看護学研究科博士後期課程の設置認可、国際学群改組及び人間健康学部への新学科設置への取り組みなど、時代や地域のニーズに応える教育研究組織の改編を推進したことは高く評価できる。
- ・琉球文学大系を沖縄県全体への文化的貢献と位置付けて積極的に取り組んでおり、「おもろさうし」上巻を刊行するなど、着実に事業を推進していることは高く評価できる。
- ・沖縄ディアスポラに関する学際的な調査や研究、研究成果の発表を通じて、その理解を促進し、研究の発展に貢献するため、沖縄ディアスポラ研究センターを設置したことは高く評価できる。
- ・新型コロナウイルス感染症ワクチンの大学拠点接種の会場として、本学学生のみならず近隣他校の生徒、職員家族及び関連事業者への接種にあたり学長のリーダーシップを発揮したことは高く評価できる。
- ・学長ガバナンスを強化し組織の改革・改善を図るうえで、常に職員・教員・学生、地域との対話をおとして、当事者の視点に立ち「学生中心」の大学運営を推進していることは高く評価できる。

総合的に、砂川昌範学長の学長としての卓越したリーダーシップにより、名桜大学の更なる飛躍の基盤を広げてきたものと評価できる。